



## 8月号 この時期注意が必要な病害虫について

こんにちは、高南農業改良普及所です。8月～9月にかけて発生が増える病害虫と対策についてお知らせします。

### ① 立枯病 *Fusarium solani*

糸状菌による土壌病害で、主茎の**下位葉から茶色く変色し、上位葉へと進展します**。次第に高次茎にも進展し、立枯症状となります。病原菌は根から侵入し、病気が進行すると**維管束付近が褐変、空洞**になる特徴があります。

土壌伝染もしますが、**主に罹病種塊茎で伝搬**と考えられます。罹病種塊茎から発病した場合、初発は6月頃ですが、**9月以降に発病が多くなります**。

#### <対策>

- ・ 維管束部が褐変や空洞化している種塊茎は使用しない。
- ・ 発病株はほ場外に持ち出し処分する。
- ・ 植え付け前の土壌消毒を行う。



### ② 紋枯病 *Rhizoctonia solani*

糸状菌による土壌病害で、主に**葉鞘の地際付近で発生**し、病斑中心部は茶色く変色後消失した後に浅い陥没病斑となります。発病適温は30℃付近で、多湿条件を好みます。露地栽培では7月頃から発生が始まり、**8月以降に発生が増加します**。

病原菌は罹病残渣とともに土壌中で越冬し、翌年の伝染源となるほか、罹病した種塊茎を植えることで伝染が広がります。

#### <対策>

- ・ 発病株は伝染源となるため、発見次第直ちに抜き取り処分する。
- ・ 発病が疑わしい種塊茎を使用しない。

#### <主な登録薬剤>

- ・ ダコニール1000
- ・ モンカットフロアブル40 など

※防除の際は農薬の登録内容(散布方法、希釈倍率など)をよく確認したうえで実施してください



### ③ ハスモンヨトウ

幼虫は主に新葉や未展開葉を食害しますが、露出した塊茎を食害することもあります。若齢幼虫は表皮を残して食害するため、食害された部分は白変します。露地作物では6月頃から発生し、8月下旬～9月に最も多く発生します。

#### <対策>

- ・若齢期防除の徹底、ほ場周辺の作物も防除
- ・発生源となるほ場周辺の雑草繁茂地などの除草

#### <主な登録薬剤>





- ・アクセルフロアブル
- ・グレーシア乳剤
- ・フェニックス顆粒水和剤 など

※防除の際は農薬の登録内容(散布方法、希釈倍率など)をよく確認したうえで実施してください  
 ※薬剤抵抗性発達を避けるため、同一系統の薬剤を続けて散布しないよう注意して下さい



### ★立ち枯れ症状を引き起こす病害について

黄化、枯死を引き起こす病害は複数あり、それぞれの特徴は以下のとおりです。ただし、必ずしも以下のような特徴が現れるとは限らず、また、複数の病害に同時に感染している場合もあるので、判断に迷う場合は下記の問い合わせ先へご相談ください。

病害名	原因	伝染源	ほ場内での発生状況	特徴	罹病塊茎の写真
根茎腐敗病	糸状菌	土壌、残渣、罹病種塊茎	発生株から周囲へ速やかに伝染し、集中して発生	塊茎は軟化、腐敗し、褐色の陥没病斑を生じる。	
立枯病	糸状菌	土壌、残渣、罹病種塊茎	点在	塊茎内部の維管束付近が褐変、空洞化	
腐敗病	細菌 ※他の野菜類の「軟腐病」と同じ細菌	土壌、残渣、罹病種塊茎	点在	塊茎がとけるように軟化、腐敗し、悪臭を放つ。根茎腐敗病と症状が類似。	
青枯病	細菌	土壌、残渣、罹病種塊茎	発生源から周囲へ速やかに伝染し、集中して発生	地際部が水浸状に軟化し、塊茎内部は黄褐色に変色。茎や塊茎を切断して水に浸すと、白色の細菌液が見られる場合あり。	
赤枯病	ファイトプラズマ	虫媒 (ヨコバイ)	点在	株全体の黄化、生長点の軟化。種塊茎や一次塊茎に浅いしわが見られる事がある	